

はじめに

天文教育普及研究会 会長 嶺重 慎（京都大学大学院理学研究科）

第 25 回天文教育研究会（2011 年天文教育普及研究会年会）は、名古屋市科学館で、137 名の参加者を得て行われました。招待講演は 3 件、発表（ポスターを含む）は 50 件ありました。実行委員長の 大西高司さんほか実行委員の皆さん方、講演・司会をして頂いた方々、そして出席して下さった方々のおかげで、充実したプログラムを堪能し、突っ込んだ議論や意見交換をすることができました。あらためて御礼申し上げます。

今回のメインテーマは「天文教育のニューウェイブ」でありました。「発足から四半世紀近く活動を続けてきた当会には、いま、若手の人たちのさまざまな活動を通して、天文教育の新たな可能性が芽生えつつあります」という趣旨によるものであります。当会が「天文教育普及活動をする人たちの集まり」というだけでなく、「天文教育普及活動をする人たちをサポートする集まり」にもなるべきとの理念のもと、多くの事例発表がありました。伊藤信成さんが司会を務めたテーマセッションでは、若手が自主的に、楽しみながら行っている街角（ゲリラ）観望会をはじめとする新しい活動の紹介がありました。ほかにも多岐に渡るユニークな活動報告がありました（この集録をご覧ください）。まさに「既存概念を超えた新たな天文教育普及活動の可能性を探り、その確立をめざす」ための一歩を踏み出した会合となったと言えます。

会場となった名古屋市科学館は、開館から約半世紀を経て、この 3 月に新装オープンしたばかりです。会期中、新プラネタリウムや新天文台などを見学することができましたことも、今回の年会の大きな特色でした。確かにプラネタリウム見学は圧巻でした。

メインテーマに関連したセッションに加えて、特別セッション「天体観望会を企画・実施するためのノウハウ交換会」は水野孝雄さんの司会で、文字通り、実践に密着した意見交換が、ミニセッション「2012 年金環日食について」は大西浩次さんの進行で、金環日食を全国規模で安全に楽しむための情報交換がなされ、それぞれ特色あったことと思います。ミニセッション「動き出した新指導要領」では、鈴木文二さんの司会進行で、新指導要領に関し問題の共有と今後の方向性の議論を深めることができました。全体的に若手の発表も多く、活気に満ちた会合で、出席者、それぞれに満足したことと思います。

今年の年会の冒頭で、私は「会を始めるにあたり『お願い』をさせていただきました。「会」の全プログラムは、会員・出席者のものであり、発表者による『講演会』でも、一方通行の会、言いつばなしの会でもないこと、コミュニケーションの会、情報・意見交換の会であるために、講演者は時間厳守で、必ず質疑応答の時間を確保してください、集録に質疑応答も含めてください」とお願いしました。おおむね、このお願いは守られたと思いますが、質疑は一部の人に偏りがちであり、もっと幅広い議論ができればという感想を持ちました。時間をかけて、さらに活発な意見交換ができる会を目指したいと思います。

さて、来年の年会は、和歌山で開催します。ここ数年、出席者数ものびていますが、それだけでなく、毎回、新しい活動展開がなされているように思います。この勢いをそのまま来年の研究会へとつなげたいものです。みなさま、来年は和歌山でお会いしましょう！